

JAMトピックス

リモートライブ配信で

JAM結成20周年記念式典を開催 魂を継承し、次の10年へ運動推進



「JAM結成25周年は盛大に開催したい」と安河内会長

JAMは5月28日に「第38回中央委員会」後に、「JAM結成20周年記念式典」を東京・港区「友愛会館」を本会場にリモートによるライブ配信で開催した。

JAMの結成は1999年9月9日。当初は昨年5月に、台東区のホテルで来賓を招いて総勢500人で開催する予定が新型コロナ感染拡大による影響で今年度に延期され、緊急事態宣言下であることから今開催をWeb配信した。

20周年を振り返るDVD上映から始まり、主催者を代表して安河内賢弘会長は「1999年9月9日に、労働界全体の驚嘆と激励の中で誕生したJAMは、日本の労働運動の中で常に異彩を放ちながら、運動を進めてきた。結成当時に掲げたJAMの理念は決して色あせることなく、私たちの運動の道しるべとして輝き続けている。JAM結成に向けて確認された『われわれはなぜ統一を進めるのか』、更には結成大会で確認された『JAMの理念』、この二つの文章に込められたJAMの魂をしっかりと継承し、次の10年に向けて力強く運動を進めていく」とあいさつで述べた。

歴代会長の5人から リモート中継で祝辞



服部光朗JAM初代会長（写真上）ら歴代会長の5人・小出幸男氏（メッセージ代読）・河野和治氏・真中行雄氏・宮本礼一氏からは、出身組合の事務所や居住地近隣会議室などからリモートライブ中継により祝辞を受けた。

服部氏（現JAM相談役・本紙コラムの執筆者）は「JAM結成の意義や、『風吹かねば樹動かず』『万物は流転する』といった慣用句で現役組合役員や組合員などを激励した。

この式典の写真等を掲載した「20年記念誌」を今夏の第23回定期大会で配布する予定。